

中山間地域の未来創造支援事業の進捗状況について

令和2年9月17日

中山間地域振興課

1 趣旨

若年層の流出や少子高齢化の進展による担い手不足等が続いている中山間地域における産業対策を基本とした就業機会の創出に向け、関係市町が取り組む「未来創造計画」について、令和元年度の進捗状況を取りまとめた。

2 令和元年度の目標達成状況等

※網掛けした市町は令和元年度で計画終了。その他は2年度で終了

区 分	市町名	目指す将来像 【主な指標】	R1のポイント
◆順調 ※ 最終目標に向け、R1年度目標をほぼ達成	該当なし		
◆概ね順調 ※ 一部に未達があるが、改善策の実施により、最終目標の達成が見込まれるもの	世 羅 町	➢ 農業のメッカ《世羅町》の確立 【新規就農者数】	就農相談は増加するも、希望者に明確なビジョンが描き切れず、単年度目標は未達成。
	尾 道 市 (御調・瀬戸田)	➢ 御調 道の駅を拠点とした販売と生産の好循環の創造 【道の駅売上額】 ➢ 瀬戸田 中心市街地に「ひと」が集まる魅力づくり 【観光客数、新規開店数】	道の駅での商品開発等に取り組んだが、やまなみ街道全通による導線の変化や、H30 豪雨災害、新型コロナウイルスの影響で売上は減少傾向。 瀬戸内海への注目度が高まる中、サイクルシップの運航やメディア露出により観光客数が大幅に増加。
◆遅れている ※ 計画最終年を迎えるも、最終目標に不達だったもの、あるいは、残された計画期間で、現状の取組の検証又は計画の見直しを行う必要があるもの	府 中 市	➢ 中心市街地、上下地区を中心とした賑わいの創出 【空き店舗等活用者数、道の駅販売額】	空き店舗等活用者数は順調に増加。道の駅販売額は前年度から増加したが、目標は未達成。
	安芸高田市	➢ 観光と農業で支える伝統文化の里 【観光客数(主要施設)、観光消費額】	観光客数は、H30 豪雨災害から回復するも、観光消費額は伸び悩み。その一方で、産直市の売上は好調。
	江 田 島 市	➢ ブランド強化及び交流充実による産業活性化 【農業販売額、観光消費額】	高水温により、カキの出荷量は伸び悩み。新ホテル建設に向けた既存施設の閉館の影響等で観光客数も低迷。
	北 広 島 町	➢ 都市との近接性を活かしたバリュー・ブランドの構築 【観光消費額、農業販売額】	雪不足によりスキー客が激減し、観光消費額が低迷。農産物は、価格の低迷等により販売額が減少。
	神石高原町	➢ 神石高原ブランドの確立《源流の里 神石高原》 【農業販売額、特産品販売額】	トマトや和牛の出荷量低下で販売額は減少。道の駅「さんわ182ステーション」のリニューアルで特産品販売額は伸長。
	呉 市 (島しょ地域)	➢ くれブランドが輝き続けるアイランド 【入込観光客数、新規漁業者数】	観光客は、H30 豪雨災害前の水準まで回復。新規漁業者の確保ができず、安定した収入モデルを構築中。
	三 原 市 (久井・大和)	➢ 観光交流で賑わい、住民が輝く地域づくり 【総観光客数、観光消費額】	観光客数は概ね目標を達成するも、消費単価の減少などにより消費額は未達成。
	大 竹 市 (栗谷・松ヶ原)	➢ 「マロンの里交流館」を核とした地域まるごと6次産業化 【マロンの里販売額】	夏場の高温・少雨の影響で、野菜が品薄となり、利用者数・売上額ともに目標額に届かず。
	東 広 島 市 (福富・豊栄・河内)	➢ 地域拠点連携による、魅力ある県央地域の創生 【新規就農者数、道の駅等販売額】	新規就農者は、概ね計画どおり確保。道の駅等販売額は、一部を除いて、H30 豪雨災害前の水準以上に回復。

3 今後の対応

フォローアップ計画の策定を検討中の府中市を除き、本年度をもって全市町で計画期間が終了する。その後も各市町の総合戦略において取組が継続されることから、元年度で終了した市町も含め、この間明らかとなった課題に対し、積極的な助言等に努めていく。

参考

【全域が中山間地域の市町】

市 町 名 《計画期間》	主 な 指標項目	最 終 目 標	R1 年度の実績			実績の理由・今後の取組の方向性等
			計画	実績	達成度	
府中市 《H27～R 元》 R2 まで延長	空 き 店 舗 等 活 用 者 数	累計 21 人	累計 21 人	累計 27 人 (単年度 9 人)	遅れ	- 市の創業支援制度や商工会議所等との連携により、「空き店舗等活用者数」は計画を上回る。 - イベント開催による誘客やレストラン利用者のニーズに合わせたメニュー開発等により、道の駅販売額は前年より増加。更なる誘客に向け取組を継続。
	道の駅販売額	3.8 億円	3.8 億円	1.3 億円		
安芸高田市 《H24～R 元》	観 光 客 数 (主要施設)	102 万人	102 万人	97 万人	遅れ	- 八千代産直市の増加と神楽門前湯治村の市内客向け割引サービスによって、それぞれ観光客数と観光消費額は前年度を上回ったが、目標数値には届かず。 - R2 年度は新たな道の駅「三矢の里」開業による観光客数・観光消費額の増加を図るほか、農業体験や神楽体験を取り入れた観光素材の商品づくりを進める。
	観 光 消 費 額	16.0 億円	16.0 億円	11.4 億円		
江田島市 《H24～R2》	総 観 光 客 数	70.0 万人	69.0 万人	52.3 万人	遅れ	- 新ホテルの建設に伴う宿泊・温泉施設の閉館等により、総観光客数及び観光消費額は計画数値に届かず。 - 今後、体験型観光商品を販売・PR する「えたじまものがたり博覧会」を実施するほか、観光コンテンツの開発を加速させ、複数のメディアの組み合わせによるプロモーションの展開など、効果的なPR に取り組む。
	観 光 消 費 額	9.7 億円	9.5 億円	7.3 億円		
北広島町 《H24～R 元》	観 光 消 費 額	37.1 億円	37.1 億円	27.0 億円	遅れ	- 温泉施設の閉鎖、暖冬によるスキー場の休業や営業日数減により、観光消費額が昨年を下回った。神楽や地域資源を活用した観光素材の開発に取り組み、集客を図る。 - トマトは、高齢者のリタイアや高夜温の影響で生産額が減少。PR を強化し、新規就農を目指す研修生の確保等を図っていく。
	農 業 販 売 額	8.1 億円	8.1 億円	6.1 億円		
世羅町 《H23～R2》	人口社会減ゼロ 社会減抑制効果	年平均 ▲100 人を 0 人に抑制	新規就農 10 人 (累計 90 人)	新規就農 7 人 (累計 71 人)	概ね順調	- 就農相談は増えているが、ビジョンが描けず研修に至らないケースが多く、新規就農者数の単年度目標は未達成。 - 相談時に、独立就農の具体的なイメージが持てるよう、営農モデルを提示し、研修→就農への誘導を図る。
神石高原町 《H24～R2》	農業販売額	16.9 億円	12.2 億円	9.0 億円	遅れ	- トマトの担い手育成や和牛の増頭促進を進めているが、担い手のリタイアによる生産量の減り方が早く、販売額の増加につながっていない。 - 作付面積や飼養頭数の拡大に向け、研修受入による就農者の育成や大型農家での飼養頭数拡大支援を継続実施する。
	特産品販売額 (町内産直市)	2.6 億円	2.2 億円	0.8 億円		

※ 三次市、安芸太田町及び大崎上島町は平成28年度に、庄原市は平成30年度に、それぞれ計画終了。

【一部が中山間地域の市】

市 名 (対象地区) 《計画期間》		主 な 指標項目	最 終 目 標	R1 年度の実績			実績の理由・今後の取組の方向性等
				計画	実績	達成度	
呉市 (音戸, 倉橋, 下蒲刈, 蒲刈, 豊浜, 豊) 《H27～R 元》		入込観光客数	52 万人	52 万人	38 万人	遅れ	○ 観光客数が H30 豪雨災害前まで回復してきた施設もあるが、最終的に目標は未達成となった。
		新規漁業者数	累計 10 人	累計 10 人	累計5人 (単年度 0 人)		○ 太刀魚の不漁により新規漁業者の確保が難しい状況。太刀魚に代わるわかめ養殖など、複合収入により生計を立てるモデルを検討していく。
三原市 (久井, 大和) 《H27～R 元》		総 観 光 客 数	54.1 万人	54.1 万人	51.7 万人	遅れ	○ H30 豪雨災害による白竜湖スポーツ村公園の利用者減(▲約3万人)の影響などにより、総観光客数, 観光消費額ともに目標は未達成。
		観 光 消 費 額	23.2 億円	23.2 億円	19.0 億円		○ 地域連携DMCの設立(R2.1)により、今後着地型観光商品や特産品の企画を要請予定。
尾道市 《H27～R 元》	(御調)	道の駅売上額	4.6 億円	4.6 億円	3.5 億円	概ね順調	○ 道の駅リニューアル効果の薄れや、やまなみ街道の全通, H30 豪雨災害等により来訪者も減少し、売上額目標は未達成。
	(瀬戸田)	観 光 客 数	72.0 万人	72.0 万人	79.4 万人		○ NYタイムズ紙の紹介で瀬戸内海の注目度が高まり、サイクルシップ「ラズリ」の運行や未来心の丘のSNSでの評判等により、観光客数は目標を超えた。
		新 規 開 店 数	累計 11 店舗	累計 11 店舗	累計 8 店舗 (単年度 1 店舗)		○ 新規創業に向けた問い合わせも複数件あり、計画期間終了後も空き店舗活用の継続が見込まれている。
大竹市 (栗谷, 松ヶ原) 《H27～R 元》		マロンの里 交流館販売額	0.6 億円	0.6 億円	0.33 億円	遅れ	○ 夏場の高温・少雨が、直売所の主力商品である栗や野菜の生育に悪影響を及ぼし、直売所への来場者数・販売額ともに目標に届かなかった。
							○ 今後、農業者の意向を把握しながら、農産物のブランド化を検討。また、新たに開拓した販路への計画的な出荷体制の構築に引き続き取り組む。
東広島市 (福富, 豊栄, 河内) 《H28～R2》		新規就農者数	累計 10 人	累計 8 人	累計 7 人 (単年度 3 人)	遅れ	○ 就農フェアや短期農業体験研修ツアーなどの取組により、新規就農者を単年度目標(2名)に対して3名を獲得。
		道の駅等販売額	4.9 億円	4.6 億円	3.4 億円		○ 引き続き新規就農者育成研修事業による研修生を随時募集し、新規就農者の育成を図る。
							○ ブランド商品開発(H30～R1:延べ50品目)、道の駅における親子向けイベント、SNSでの情報発信等により購入者数・販売額がともに増加し、H30 豪雨災害から回復。
							○ 引き続きブランド商品開発(R2:50品)に取り組むほか、マーケティングや観光コンテンツの発掘等に向け、R3から東広島DMOを本格稼働させる。

※ 廿日市市は平成30年度に計画終了。